

科目コード	N308
授業科目名	老年看護学実習
授業科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing
講義室等	実習施設
学科	看護学科
対象学年	3年・4年
開講学期	後学期・前学期
必修・選択の別	必修
単位数	2・2
時間数	90・90
該当ディプロマ	◎看DP-2
該当コンピテンス	◎看CP-4、○看CP-7、△看CP-9
学科	
対象学年	
開講学期	
必修・選択の別	
単位数	
時間数	
該当ディプロマ	
該当コンピテンス	
担当教員	教務部長
授業の概要	<p>加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化や老年期特有の疾患などにより生活機能障害をきたしている高齢者との関わりを通して、対象理解、生活の場の理解、さらに対象者の生活の場に応じた看護の方法や役割について学習を深める。また、高齢者のもつ個別性に応じた看護実践のためには、対象者の生活史や強みを見出し、ケアにつなげていくことが基盤となることも学んでいく。</p> <p>老年看護学実習は4単位180時間で構成されるが、3年次に認知症高齢者への生活の場における看護および小規模多機能型居宅介護を利用している高齢者への看護、4年次に要介護状態にある高齢者の生活の場における看護について、2つの実習構成にて学習を行う。</p>
授業の到達目標 (学修効果)	<p><認知症高齢者グループホームおよび小規模多機能型居宅介護実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症高齢者との援助的コミュニケーションについて説明できる 2. グループホームに入居する認知症高齢者の対象理解ができる 3. 小規模多機能型居宅介護を利用する高齢者の特徴を理解できる 4. 認知症高齢者の権利擁護について考察できる 5. 看護学生としての役割・責任・行動を認識し、看護者としての自己課題を明確化できる <p><介護老人福祉施設実習等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の権利擁護や対象理解の重要性を理解し、援助的人間関係を構築することができる 2. 対象に実施されている援助の根拠を踏まえ、援助の一部実施、評価ができる 3. 施設の生活環境や多職種連携、看護の役割について説明できる 4. 看護学生としての役割・責任・行動を認識し、看護者としての自己課題を明確化できる
予習復習の所要時間	実習時間180時間
成績評価方法	ルーブリック評価(100%)で60点以上を合格とする。
教科書	北川公子他著「系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学」第9版 2023年版(医学書院)(老年看護学概論と同じ) ISBN 978-4-260-03186-8
参考書	山田律子著「生活機能からみた 老年看護過程 +病態・生活機能関連図 第4版」2021年(医学書院)
その他	*詳細については臨地実習要項及び実習の手引きを参照すること。

		実習内容・実習場所	実習の形態	実習担当者
1	第1週目	(認知症高齢者グループホーム・小規模多機能型居宅介護) 1日目：学内オリエンテーション 2日目：臨地オリエンテーション 3～4日目：臨地実習 5日目：臨地実習、臨地カンファレンス	・実習の手引きによるオリエンテーション ・技術演習 ・受け持ち対象を受け持ち、実習を行う ・コミュニケーション ・アセスメント	教務部長
2	第2週目	1～2日目：臨地実習 3日目：臨地実習、臨地カンファレンス 4日目：学内カンファレンス 5日目：学内カンファレンス、記録提出	・受け持ち対象を受け持ち、実習を行う ・グループワーク ・プレゼンテーション ・ディスカッション	教務部長
3	第3週目	(介護老人福祉施設) 1日目：学内オリエンテーション 2日目：臨地オリエンテーション 3～4日目：臨地実習 5日目：臨地実習、臨地カンファレンス	・実習の手引きによるオリエンテーション ・受け持ち対象を受け持ち、実習を行う ・コミュニケーション ・アセスメント	教務部長
4	第4週目	1～2日目：臨地実習 3日目：臨地実習、臨地カンファレンス 4日目：学内カンファレンス 5日目：学内カンファレンス、記録提出	・受け持ち対象への看護実践・評価 ・グループワーク ・プレゼンテーション ・ディスカッション	教務部長